



## 今月のひまわり画像—2020年11月

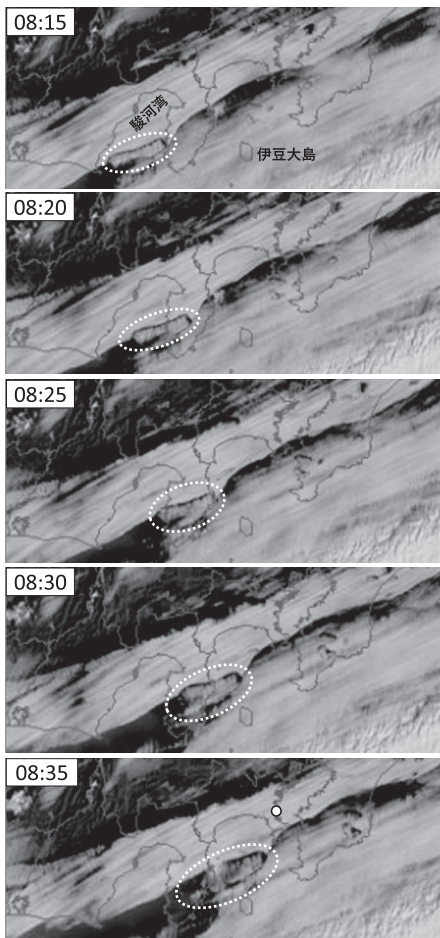
### 穴あき雲

第1図は2020年11月30日08時15分～08時35分の静岡県から千葉県付近における可視画像である。08時15分には駿河湾に縁に雲のない細長い雲域（同図点線内）が進んできて、東北東へ進みながら08時35分には伊豆大島の北に楕円形をした雲の消散する領域（同図点線内）が見られた。第2図は横浜市金沢区から南西の方向を撮影した写真で、巻積雲の中に楕円形をした穴

あいていてその中には巻雲が見られる。これは「穴あき雲」と呼ばれている。穴あき雲は、過冷却の雲粒から成る高積雲や巻積雲の中に、何らかの原因で氷晶の種がまかれると、氷晶が急速に成長し重くなって落下し、それより下層の空気が乾燥している場合に氷晶が昇華蒸発することによって形成される。第3図は同日09時の潮岬のエマグラム（可視画像から観測時刻近くにその周辺で別の穴あき雲を確認）で、330～380hPa付近は湿っていて巻雲や巻積雲に対応しているとみられ、500hPaより下の高度では乾燥している。

なお、当日は西日本から東日本の太平洋側で数多くの穴あき雲が出現しており、Natural color（日中自然色）RGB画像では、氷晶から成る青色の雲が過冷却水から成る白色の雲の中に現われ、穴が形成されていく様子がはっきり捉えられていた。

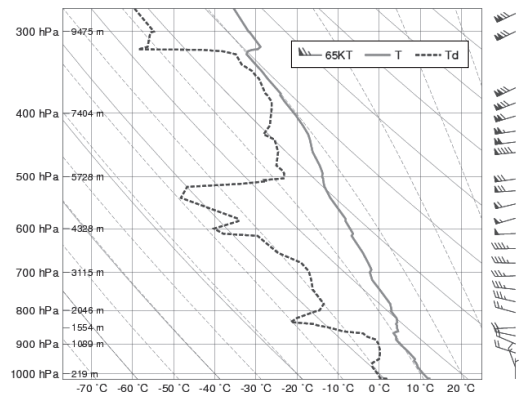
（気象庁大気海洋部予報課 原 基）



第1図 2020年11月30日08時15分～08時35分の5分毎の静岡県から千葉県付近における可視画像。○記号の中心は横浜市金沢区を示す。点線については本文参照。



第2図 30日08時37分に横浜市金沢区（位置は第1図参照）において南西方向に見えた穴あき雲（筆者撮影）。



第3図 30日09時の潮岬におけるエマグラム。